

今日のキーワード 野菜価格の高騰（日本）

日々の生活に密着する食料品価格は、スーパーなどの小売店の店頭でその価格の変化を感じ取ることが出来ます。食料品価格の変動は、その時の天候や収穫状況などと深く関わっています。その動向は消費者物価指数（全国）の細目で把握することができ、食料品は全体の25.25%、生鮮野菜は同1.75%を占めています。また、農林水産省が市場での卸売価格動向などを発表しています。

ポイント1 天候不順の影響を受け、野菜価格が高騰 レタスや白菜など葉物野菜が特に高い！

■農林水産省が発表している「青果物卸売市場調査（9月上旬）」によると、野菜価格（全体）は前年の同時期と比べて15%上昇しています。中でもレタスは同+152%と2.5倍以上となっています。また、じゃがいも（同▲14%）、ねぎ（同▲10%）、にんじん（同▲9%）など一部を除き、はくさいは同+55%、カリフラワーは+81%となるなど、野菜全体で価格が上昇しています。8月は2つの台風が接近・上陸し、西日本を中心に大雨となるなど、天候不順が続いたことが大きな要因です。

ポイント2 野菜価格を取り巻く天候以外の要因は？ 原油価格や円相場などに注意

■最近の野菜などは、より安定した生産のため、ビニールハウス栽培などが多く活用されています。これによると、気温の変化などを受けにくい分、温度を一定にするため、エネルギー価格などがコストとしてかかってきます。原油価格は、新興国景気の減速や地政学リスクの後退などから足元は下落していますが、今後上昇する際には、野菜価格上昇の要因となります。

■野菜は国内生産だけでなく、海外からの輸入も多くあります。円相場は、7月末までしばらく横ばいで推移していましたが、先週19日には1米ドル＝109円を突破するなど、円安が輸入野菜価格の上昇に影響すること考えられます。



今後の展開 野菜価格は引き続き上昇？食生活の中にも映る身近な経済とは？

■天候不順の影響が長引き野菜は一段と高騰？
農林水産省は月に1回、野菜価格の見通しを発表していますが、足元の価格高騰を受けて、9月は異例の2回目の発表を行いました。これによると、9月に入ってから日照不足や低気温が続いていることから、キャベツ、レタス、キュウリ、なすは生育が遅れており、9月後半の価格上昇が見込まれています。また、8月の天候不順が影響し、さといもなども今後価格が上昇すると見られています。

■食欲の秋に食生活を通じて感じる身近な経済
食事など日々の生活は、経済と密接に関わっています。9月に入り暦の上では秋となり、食欲の秋を迎えました。また今年はやや気温の低下が早く鍋料理の恋しい季節も間もなくです。鍋料理は、1つのお鍋の中に沢山の食材が入ります。何気ないお鍋をつつく時間にも、エネルギー価格や円相場などにも思いを巡らせ、身近な経済を感じてみてはいかがでしょうか？

ここも チェック！

2014年09月19日【デイリー No.1,955】日本株の最近の動向

2014年09月09日【キーワード No.1,410】景気ウォッチャー調査（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。